

VIII 研究のまとめ

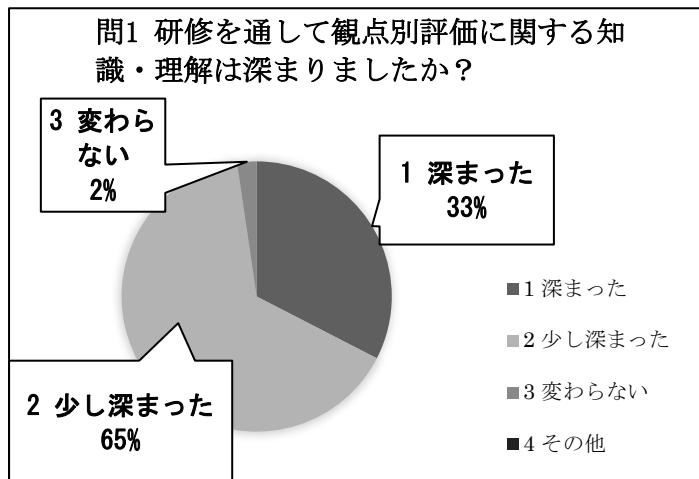
1 研究の成果と課題	154
2 今後の展望	157

VIII 研究のまとめ

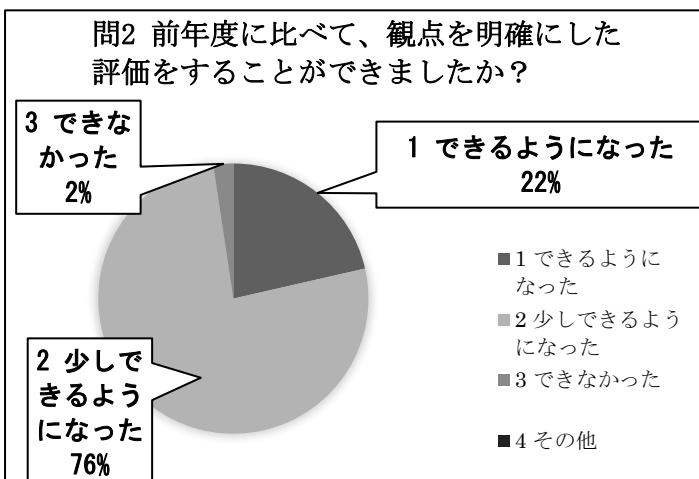
1 研究の成果と課題

(1) 「評価に関する教諭アンケート調査」の結果と考察（小中高職員 43 名に実施）

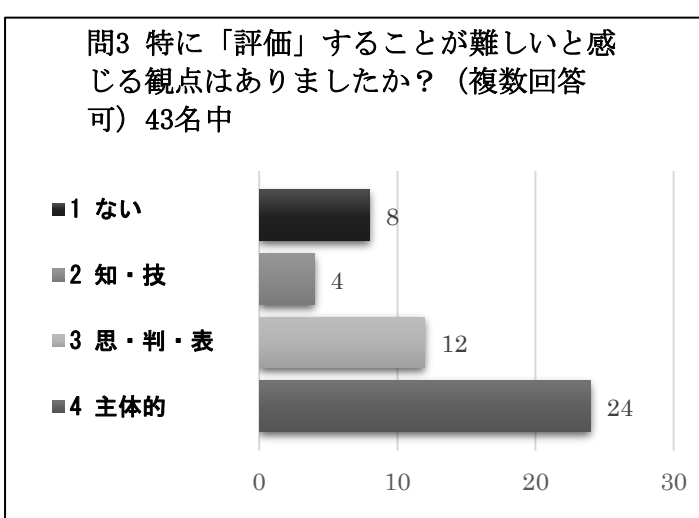
本研究を通して本校職員の観点別評価に関する知識や意識の変容、授業改善のポイントを押さえた実践に取り組むことができたか等を見取るためにアンケート調査を行った。調査は令和2年11月頃に学部ごとに実施した。回収率は90%。ここでは、教諭のアンケート調査の結果のみ取り扱っている。寄宿舍職員のアンケート調査の結果については寄宿舍の報告の中に載せている。



問1 【観点別評価の理解】**成果**
 研修を通して観点別評価の理解が「深まった」33%、「少し深まった」65%、「変わらない」2%という結果となった。研修を通して観点別評価に対する教諭の理解が深まったことが窺える。

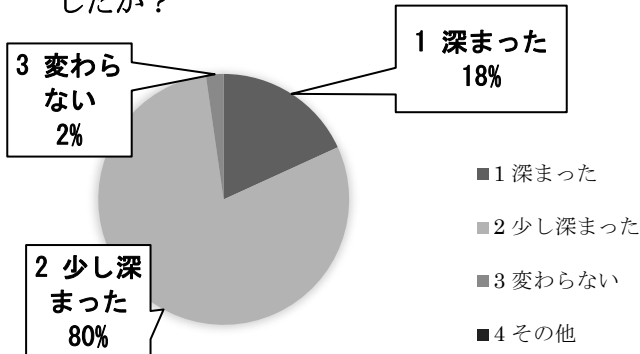


問2 【観点を明確にした評価】**成果**
 98%の教諭が研修を通して観点を明確にした評価が前年度よりも「できるようになった」もしくは「少しできるようになった」と回答している。ただし、「少しできるようになった」が76%なので、観点を明確にした評価の実施を今後とも深めていく必要がある。



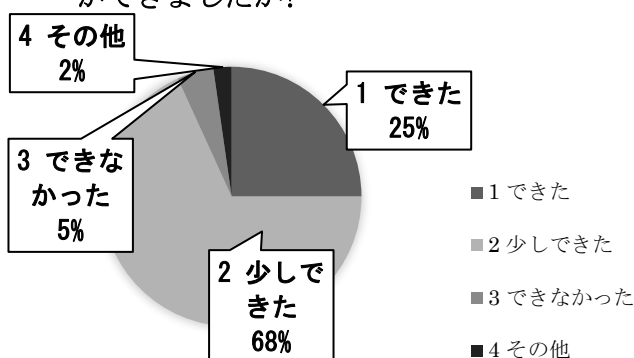
問3 【評価の難しい観点】**課題**
 評価することの難しい観点が「ない」19%、「知・技」9%、「思・判・表」28%、「主体的」56%という結果となった。小学部は「思・判・表」に難しさを感じる職員の割合が1番多く、中・高等部では「主体」に難しさを感じる職員の割合が1番の多かった。

問4 研修を通して[「主体的・対話的で深い学び」]に関する知識・理解は深まりましたか？



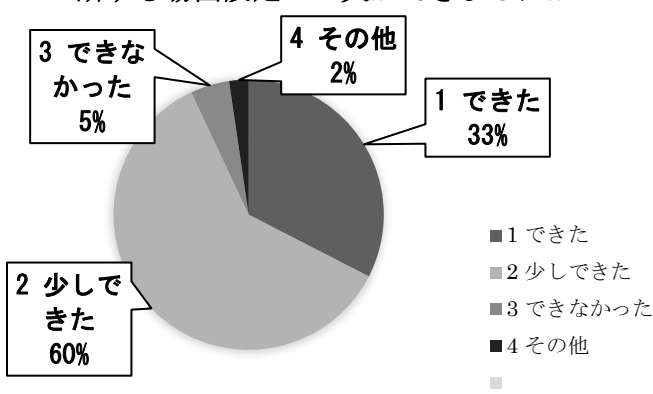
問4 【主体的・対話的で深い学びの理解】
成果 98%の教諭が研修を通して「主体的・対話的で深い学び」に関して理解が「深まった」もしくは「少し深まった」と回答している。ただし「少し深まった」が80%なので、主体的・対話的で深い学びについての理解を今後とも深めていく必要がある。

問5 前年度に比べ、子ども達に対して学習の意義や計画の提示の工夫をすることができましたか？



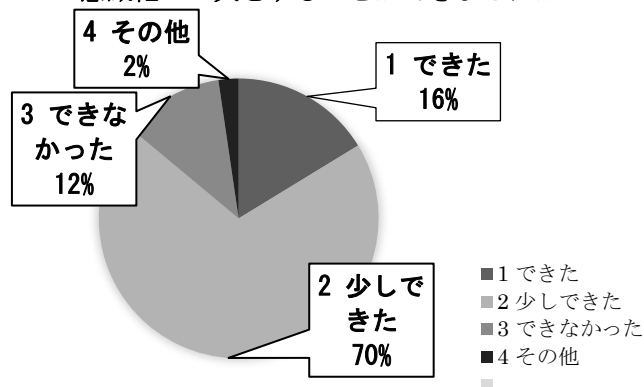
問5 【学習の意義や計画の提示】**成果** 前年度に比べ、学習の意義や計画の提示を工夫することが「できた」もしくは「少しできた」との解答が93%となり、前年度よりも学習の意義や計画の提示の工夫の意識が高まったと考えられる。

問6 前年度に比べ、子ども達が考え、判断する場面設定の工夫ができましたか？



問6 【子どもが考え、判断する場面設定】**成果** 前年度に比べ、子ども達が考え、判断する場面設定の工夫をすることが「できた」もしくは「少しできた」との解答が93%となった。

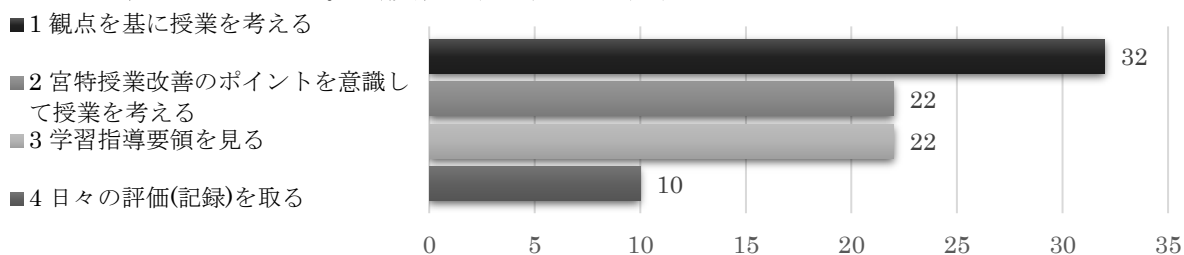
問7 前年度に比べ、振り返りを通した学びの意識化の工夫をすることができましたか？



問7 【振り返りを通した学びの意識化】**課題** 前年度に比べ、振り返りを通した学びの意識化の工夫をすることが「できた」もしくは「少しできた」との解答が86%となった。

問5 6 7 【宮特授業改善のポイントの比較】**課題** 問5 6 7は宮特授業改善のポイントを押さえた工夫ができたかどうかについて聞いたものである。この3つのポイントを比較してみると、1番工夫することができたポイントは「考え、判断する場面設定の工夫ができた33%」、反対に1番工夫することができなかったポイントは「振り返りを通した学びの意識化の工夫ができた16%」となった。「振り返りを通した学びの意識化の工夫」に課題が残った。

問8 研修を通してやるようになったこと、やることが増えたことがあれば教えてください。（複数回答可） 43名中



問8 【研修の効果】 成果 課題

研修を通して「観点を基に授業を考える」74%、「授業改善のポイントを意識して授業を考える」51%、「学習指導要領を見る」51%、「日々の評価を取る」23%と回答している。全職員が研修を通して教育実践力の向上を図ることができたと考えられる。（どの項目も増えていないと回答した職員は0名。）ただし、日々の評価を取るが増えなかったことは課題である。

(2) 2年目、研究の目標に対する成果と課題

目標1 評価と授業改善に関する理論や方法の教師間の共通認識を図る。

【成果】

- ① 観点別評価及び授業改善に対する理解をある程度深めることができた。

【課題】

- ① 観点別評価及び授業改善に対するさらなる理解を深めること、職員間の共通認識を広げていき、それを定着させていく必要がある。

目標2 観点別評価を意識した主体的・対話的で深い学びの授業改善に取り組む。

【成果】

- ① 昨年度の「観点別評価を実現する授業改善を探る」という状態から一歩進んで、宮特授業改善のポイントを作成し、それを基に授業改善に取り組むことができた。
 ② 宮特授業改善のポイントを置くことで、授業研究会での話し合いが焦点化され活性化された。

【課題】

- ① 宮特授業改善のポイント③「振り返りを通じた学びの意識化の工夫」についての方法を明確化していく必要がある。

目標3 「評価の手引き」(案)を活用し、観点を明確にした評価を行う。

【成果】

- ① 「評価の手引き」(案)を活用し、観点を明確にした学習指導案を基に授業実践に取り組むことができた。
 ② 「評価の手引き」(案)を活用し、個別の評価記録を作成し、観点を明確にした評価を行うことができた。

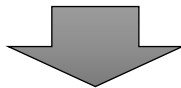
【課題】

- ① 個別の評価記録の作成は時間がかかり、実効性に乏しいため改善が必要。
 ② 「育てたい資質・能力」と関連づけた観点別目標の設定に課題があるため、「育てたい資質・能力」と関連づけた目標の設定方法を検討する必要がある。

2 今後の展望

今年度の研究の中で、「宮特授業改善のポイント」を作成し、それを基に授業改善に取り組み「観点別評価と連動した授業改善」について一定の成果を得ることができた。

来年度以降は「学習者への効果的な評価の伝え方」（評価の活用）「評価を教育課程の改善に行かしていく方法」（カリキュラム・マネジメント）についても取り組んでいく。そして、



研究の目的（長期目標）

「評価の手引き」を作成・活用し、観点を明確にした評価を実施することで、授業改善、児童生徒の学習の改善、教育課程の改善を効果的に行う。

の達成に近づけるよう全校体制で取り組んでいく。

宮特カリキュラム・マネジメント5ヶ年計画

	理論の整理	①授業改善	②学習の改善	③教育課程の改善
一 年 目	①観点別評価についての理論を整理し、「手引き」にまとめる	①「学習指導案」「評価記録」を基に、授業改善に取り組む。		
二 年 目	②「手引き」を活用し、観点別評価の理論を定着させていく	②「指導案」「記録」等を活用し、授業改善の方法を探る	①子ども自身が学習の改善に活用できる方法について探る	①年間指導計画の様式、内容の見直し
三 年 目		③授業改善の方法を定着させていく	②子ども自身が学習の改善に活用できる方法を定着させていく	②「授業評価」を基に年間指導計画を作成する
四 年 目				③「授業評価」を基に年間指導計画の改善に取り組む
五 年 目				③「評価」を基に教育課程の改善の方法について探る

《参考文献・引用文献等》

- ・中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」平成 28 年 12 月 21 日
- ・中央教育審議会「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」平成 31 年 1 月 21 日
- ・「特別支援学校幼稚部教育要領小学部・中学部学習指導要領」文部科学省 2018
- ・「特別支援学校学習指導要領解説 各教科編（小学部・中学部）」文部科学省 2018
- ・「特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編」文部科学省 2018
- ・「小学校学習指導要領」文部科学省 2017
- ・上岡一世著「新学習指導要領を踏まえたキャリア教育の実践」明治図書出版 2019
- ・上岡一世著「キャリア教育を取り入れた特別支援教育の授業づくり」明治図書出版 2013
- ・高木展朗著「評価が変わる、授業を変える：資質・能力を育てるカリキュラム・マネジメントとアセスメントとしての評価」三省堂 2019
- ・市川伸一編集「2019 年改訂 速改 新学習指導要領と『資質・能力』を育む評価」ぎょうせい 2019
- ・田中耕治編集代表「学びを変える新しい学習評価 理論実践編 1 資質・能力の育成と新しい学習評価」ぎょうせい 2020
- ・田中耕治編集代表「学びを変える新しい学習評価 理論実践編 3 評価と授業をつなぐ手法と実践」ぎょうせい 2020
- ・独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所編著「知的障害教育における学習評価の実践ガイド」ジアース教育新社 2016
- ・丹野哲也・武富博文編著「知的障害教育におけるカリキュラム・マネジメント」東洋館出版社 2018
- ・西岡加名恵・石井英真・田中耕治編著「新しい教育評価入門」有甲閣コンパクト 2015
- ・岡本薫「なぜ日本人はマネジメントが苦手なのか」中経出版 2011
- ・松村英治著「『授業研究』の創り方」東洋館出版社 2019
- ・岡山県特別支援学校校長会 岡山県教育庁特別支援教育課「授業づくりハンドブック」平成 30 年

班編制名簿

指導主事	県教育委員会 教育庁 学校教育課 特別支援教育室 前川 考治 指導主事 県立総合教育センター 特別支援教育班 比嘉 展寿 指導主事			
研究推進委員会	校長 西永 浩士 教頭 仲本 一郎 教務主任 大城 徹 寮務主任 安里 洋祐 小学部主事 喜村 昌代 中学部主事 平安名 栄樹 研修部 大嶺 耕一(研究主任・小学部) 金城 裕紀(研修主任・中学部) 江田 希和子(高等部) 金城 良(寄宿舍)			
班	小学部	中学部	高等部	寄宿舍
実践研究グループ	仲尾次 智枝 池田 健児 知花 麻希 大道 瑛司 川満 範子 秋田 菜々 高村 知子 下地 蘭 多良間 浩子 金城 舞子 桃原 勇二 與那原 江里子 與那覇 和八 金城 萌 洲鎌 梓	仲村 秀 與座 里美 崎山 里子 冨木 百合香 小濱 愛里佳 富島 裕香里 上地 真 黒島 昌樹	安里 かれん 松茂良 力 大城 盛恒 金城 努 神里 竜也 國吉 真平 下地 耕一郎 池原 豊博 重田 浩典 池原 圭之介 川満 優 上江洲 美香 砂川 理宇太 楚南 沙織 榮野川 択也 上運天 英也 大城 美咲	伊佐 光代 上原 秀哉 大見謝 匡 親泊 さゆり 島袋 義規 川満 管子 黒島 新 上原 愛美 大原 広喜 喜納 愛利 仲宗根 由乃

令和2年度 沖縄県教育委員会指定研究報告書

観点を明確にした評価の工夫

～ 「評価の手引き」の作成と活用を通して～

2020年12月吉日発行

編集・発行 沖縄県立宮古特別支援学校

〒906-0002 沖縄県宮古島市平良字狩俣 4005-1

TEL (0980) 72-5117

FAX (0980) 72-5320